

SORA

web magazine 2019.sep. vol.120

the Philippines

Malapascua

Photo & Story : Kyu Furumi

Real Exotic dive with Thresher shark

MAP
CLICK!

Travel



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.



The beginning is before sunrise

憧れのあいつとの出会いは夜明け前からはじまる

The beginning is before sunrise

マラバスクアを訪れる多くの目的は、ほぼ完全に一致すると言っても過言ではないかもしれない。「ニタリに会いたい」。そう、この海は世界でも有数のニタリとの遭遇率を誇る海だ。ニタリダイビングの集合時間は朝の4時過ぎ。まだ夜も明けきらない星空の下、リゾートでブリーフィングを済ませ、4時半にはポイント「Monado Shool」へ向けて出航する。そして5時ごろにポイントへ到着。まだ眠たそうな太陽が顔を見せたところでエントリーだ。「Monado Shool」のニタリダイビングはとても単純で、ストンと落ちるドロップオフ沿いでニタリを待つ。水底にはロープが張られ、それより先は沖に出ることはできず、基本は着底して観察することになる。ニタリは敏感な生き物なので、ダイビング中はライトおよびストロボも使用禁止。呼吸を整えて静かに待っていると、かなり近くまで接近してきてくれる。頭の割に大きな瞳。鞭のようにしなる優雅な尾ビレ。いつまでもニタリが心地よく住める海であり、いつまでも我々ダイバーが彼らに接することができる海であってほしいと心から願う。

the Philippines *Travel*
Malapascua



For wide angle



the Philippines *Travel* Malapascua



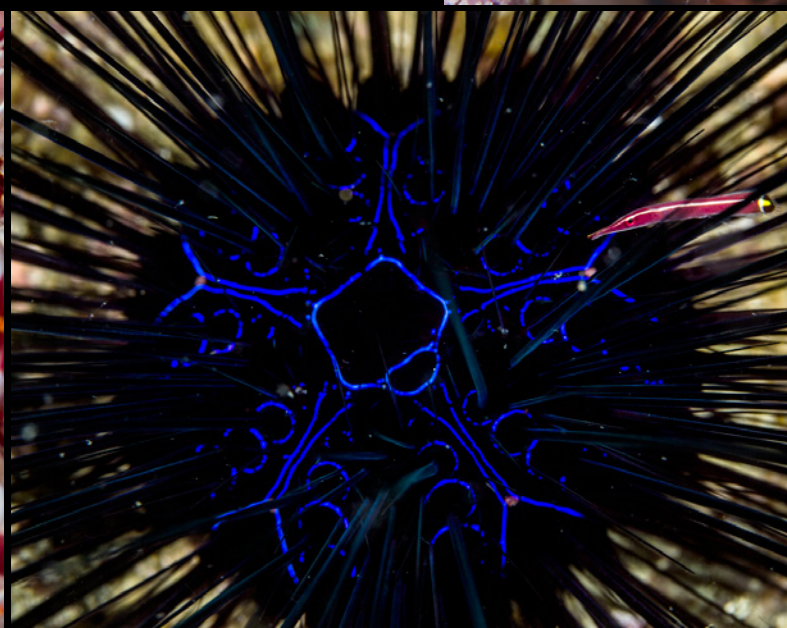
For wide angle

マラバスクアの海はどうしてもニタリが先行してしまいがちではあるが、そのほかのダイビングポイントもかなり面白い。いや、個人的には相当好みの海だ。一時間ほどの遠征で向かう「Gato island」は雰囲気のあるケーブポイント。ホワイトチップなどの数も多く、写真を撮る際の良きアクセントになり、根の周りはテンジクダイの幼魚が大きな群れとなっている。「Quillano2」や「North Point」などほとんどのダイブサイトでも印象に残ったのがなんと言ってもソフトコーラルの美しさ。ピンクやオレンジのウミトサカが、壁一面をピシッと覆うように群生しているシーンは、まさに壮観の一言。どこをどう撮っても絵になるようなフォトジェニックなポイントが多く、うれしい悲鳴をあげながら撮影を続けた。





For macro shooters マラパスクアを彩る



the Philippines ^{Travel} Malapascua

For macro shooters

実はマラバスクアの海を潜るのは今回で2回目になるのだが、前回はニタリがメインでその他の生き物などをじっくりと観察する余裕がなかった。日程にも余裕がある今回は、じっくりとマクロ生物も堪能させてもらった。お世話になった Exotic island resort のダイブセンターのガイド面々は、総じてマクロ好きが多く、話をしていると勧められるのがウミウシだったり、ソフトコーラルに隠れる甲殻類やハゼが多かった。特にウミウシの仲間は種類が多く、撮影するのが忙しいほどに次から次へと導いてくれた。マラバスクアはワイドにマクロに忙しい。のんびりなんてできるはずがない。だって面白すぎるんだから！





For macro shooters

夜の海への誘い

今回ガイドを担当してくれたエムの強い勧めもあって、日没のタイミングを見計らって「Light house」でニシキテグリの産卵を撮影したり、「House reef」でのナイトダイビングも楽しんだ。個人的にナイトダイビングはとても好きなので、チャンスがあれば毎回トライしてみるが、最良目などなしにここでのナイトは最高だった。水深10m前後のフラットな砂地に背の低い海藻が広がっているシンプルな地形。だが、この砂地にハナイカやコウイカ、ミミイカなどが結構な頻度で出現したり、どちらかと言えばじっとしているイメージの強いゼブラガニなんかも、至る所で動き回り、ウニからウニへと渡り歩いているアグレッシブな姿も見られた。そしてこれは初めて感じた経験だったのだが、中型のヤドカリたちが背負う貝殻がやけにオシャレに思えたのは僕だけなのだろうか。どのヤドカリも一癖あるという個性的な貝殻を背負っていて、なんだか彼らの中でのファッションショーが夜な夜な開催されているかのようにも見えた。こちらとしては面白くて飽きないのだが、ヤドカリの貝殻に関して深く何かを考えたこともそうなかったので、これはまた良い経験となった。マラバスクア「House reef」でナイトダイビングをする時は、ヤドカリにもぜひ注目してもらいたい。そして自分なりのベストドレッサーを決めてみるのも楽しいかもしれない。

いや絶対に楽しいはず。

Malapascua Exotic Island Resort & DIVE center

the Philippines *Travel*
Malapascua

美しいビーチの目の前に位置するラグジュアリーリゾート。数あるマラバスカアのダイブリゾートの中でも老舗とも言える存在。滞在する人々が快適に過ごせるよう、洗練された手厚いホスピタリティは世界中のダイバーを虜にし、リピーターが非常に多い。朝食は柔らかな日差しの中、日中は抜けるような青い空と海、夕暮れ時は茜色に染まる景観と、刻々と移ろう時間を楽しみながら、サンドカーベットのレストランでとる食事は格別。アジアンから欧米食まで豊富なメニューが揃う。

併設のダイブセンターのスタッフたちは、ニタリダイビングのパイオニア的存在とも言える、抜群の眼力を持つガイド陣。現在日本人ガイドは居ないものの、明るく丁寧なケアで迎えてくれるので、安心して潜ることができるだろう。一日のダイビングスケジュールもかなり余裕があるので、ゆったりとリゾートライフをエンジョイしながら、がっつりダイビングも楽しみたい。



tsumi-shima

We World explorer

